



たくましく生き抜く生徒、やさしく生き合う生徒の育成

～ Challenge Caring Communication Contribution ～

校長 清水 達夫

「大臣、あの紛争からもう19年だ。四つの民族が対立し合ったあの紛争で、この国は一体何を手にした？我々は嫌というほど経験してきたはずだ。殺し合い、憎しみ合い、数えきれないほどの大事なものを失った。争いは何一つ生まないと誰もが気付かされた。だが、あの紛争の後、お前たちは苦しむ民に手を差し伸べなかった。そればかりか金を持つ者だけを優遇し、さらに金を求め続けた。人間の欲望にはきりが無い。愚かな生き物だ。今や世界中がそうだ。誰もが自分のことばかりを考え、持つ者と持たざる者の間に大きな分断が生まれた。（中略）

これからバルカは宗教、民族の違いを争いの火種には二度としない。国の富を公平に分け、お互いの宗教、民族を尊重する国になっていく。そんなことは不可能だと人は言うだろう。だが、決して諦めない。我々の小さな一歩は子供たちへ、さらにその次の世代へと受け継がれていく。相手を敬い、分かち合うことの素晴らしさをこの国に根付かせる。それはいずれこの国の文化となり、歴史となっていくんだ。この小さな一歩は新しいバルカを築くための偉大な一歩となる！」

これは、現在放送中のテレビドラマ「VIVANT」の第1シーズン（2023年7月～9月）の最終回で「テント」という組織の最高指導者ノゴーン・ベキが語った言葉です。

その後、世界の現状はどうなったでしょうか。2022年2月からはロシアによるウクライナ侵攻が、2023年10月からはイスラエルによるガザへの侵攻が、2026年2月からはイスラエルとアメリカによるイランへの攻撃が始まりました。そして、先日はトランプアメリカ政権が、国際刑事裁判所の赤根智子所長ら2人を制裁対象に指定したと発表しました。これは、「法の支配」を軽視した身勝手な振る舞いです。これらの世界の現状を振り返ったとき、ノゴーン・ベキの言葉が胸に刺さります。

自分のことばかり考える、「自分がやりたいこと」ばかり考えるのではなく、「自分にしかできないこと」、相手を敬い、分かち合うことを考えたい。

夏休み中に行われた須山地区夏祭りでは、4人の3年生が自分たちにできることを考え、チョコバナナの調理・販売を行いました。その他にも、3人の1年生、1人の2年生、2人の3年生がかき氷販売のお手伝いをしました。温かく見守り、協力してくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

地域や世界に目を向けながら、「自分にしかできないこと」「自分にできること」（貢献「Contribution」）、相手を敬い、分かち合うこと（人を大切にする「Caring」）を考え、行動する。これからもそんな文化を須山中生には創ってほしいと思います。

残暑お見舞い申し上げます

7月23日の終業式から32日間の夏休みが終了しました。日焼けした様子や身長が伸びた様子から生徒たちは様々な体験をしたことが感じられました。夏休み終盤、3年生はすそのん寺子屋に参加し、黙々と学習する姿があり、受験に向けて意識が高まっていることが感じられました。峰友祭に向けての練習も始め、順調に準備が進められています。保護者の皆様、地域の皆様、2学期も元気いっぱいの須山中生を一緒に見守っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



7月25日に開催された須山地区夏祭りにおいて、販売ボランティアに6人の生徒が参加しました。また、3年生がソーラン節を披露しました。力強い演舞でした。また、総合探究活動の一環として、チョコバナナの調理・販売を4人の生徒が行い、197本完売いたしました。実施に当たり、区長会の皆様、学校協議会の皆様、協力隊の皆様 その他様々な方にお力添えをいただきました。ありがとうございました。



夏休み終盤の頼もしい3年生の姿です。峰友祭に向けての練習も滑り出し順調で、完全オリジナルの台本とのこと。当日が楽しみです。



今年の夏もまだまだ暑さが続くようです。熱中症対策が必要となります。地区体育大会や峰友祭の練習が本格的に始まります。7月中、マスク・ジャージ姿でいる生徒を見かけました。練習中はマスク・ジャージを脱ぐよう指導していきますが、生徒の皆さんも自分で考え判断できるようにしていきます。